



【豊中市】

- ・大阪市の北隣に位置する。
人口...399,923人(2019年8月1日現在) *うち外国人...5,814人(8月末現在)

(交通の要所)

- ・伊丹空港の玄関都市(敷地は池田市, 伊丹市にまたがる)
- ・南北に阪急電鉄(市の西部), 北大阪急行(市の東部)が通り, 東西に大阪モノレールが走る。
- ・名神高速道路, 阪神高速空港線, 中国自動車道が通る。
- ・北部には千里ニュータウン, 大阪大学が存在。南部は大阪府内でも有数の産業集積地であり, 高い技術力を備えた中小事業者が多く存在。

【とよなか国際交流協会】

- ・1993年に財団法人として設立
- ・2012年より公益財団法人
- ・現在, とよなか国際交流センター(市立)の指定管理者として, 約30の事業を実施。



コモとスース
(とよなか国流のキャラクター)

～理念～

市民の主体的で広範な参加により, 人権尊重を基調とした国際交流活動を地域からすすめて, 世界とつながる多文化共生社会をつくる

⇒ 外国人市民の自立や社会参加にむけて, 乳幼児から高齢者まで世代を分断することなく, 総合的な外国人支援を行っている。

～事業の3つの柱～

- ①多様な人々が尊重される地域づくり
(例: にほんご活動事業、おやこでにほんご、ボランティア研修、おまつり地球一周クラブ、韓国・朝鮮ことばとあそびのつどい...)
- ②周縁化される外国人のための総合的なしくみづくり
(例: 相談サービス、防災事業、子ども母語、サンプレイス...)
- ③学校とつながってつくる豊かな未来
(例: 外国語体験事業、国際教育推進事業、若者支援、学楽多...)

⇒ 毎年, 事業評価会で, ボランティアや関係者とともに, 以下の視点で全事業の振り返り、共有を実施。

- ①居場所 ~外国人が安心して居ることのできる場所をつくる
(消費&排除されない居場所)
- ②エンパワメント ~奪われた力を取り戻すことができる
- ③ボトムアップの組織づくり~民主的なプロセスでつくられる組織
(参加するみんなが活かされる)

【2】公益財団法人とよなか国際交流協会の子ども・若者事業について

安心できる居場所で、仲間や友だちとつながること、共に学んだり、遊んだり、体を動かしたり、語り合ったりすることを通じて、自分のルーツや友だちのルーツを大切に思えるようになるように、様々な事業を展開している。「学校でも家でもない」ことを生かし、できる限り、子ども・若者のやりたいことを日々の活動の出発点になるようにしている。

外国ルーツをもつ子どもに対する事業について、企画・運営するボランティアは、子どもと年齢の近い大学生・大学院生に限ったり(サンプルイス)、ルーツが同じ若者を母語を教えるスタッフに迎えたり(子ども母語)している。

また、豊中市ではとよなか国流以外にも、子どもの年齢や目的に応じて様々な活動が実施されているが、毎年、多様なルーツをもつ子どもたちやその支援に取り組む大人が一堂に会する場を設けている(多文化フェスティバル)。

一方、地域の子ども向けの国際理解のためのプログラム(外国語体験活動、おまつり一周クラブ)などは、地域で生活している外国人に講師として活躍してもらっているが、①子どもたちにとっては外国人との出会いを通して世界を実感する・学ぶ機会、②講師として参加する外国人にとっては社会参加、エンパワメントの機会となるよう取り組んでいる。

事業名	対象(日本人)	対象(外国ルーツ)	自治体との連携	多文化共生の推進	母語・母文化の尊重
①外国語体験活動	○	○	○(教育委員会委託)	○	(○)
②おまつり地球一周クラブ (&チョアチョアコリア)	○			○	
③サンプルイス		○			○
④こども母語		○			○
⑤子ども学習広場「学楽多」	○	○	○(くらし支援課委託)	○	○
⑥韓国・朝鮮の言葉とあそびのつどい		○	○		○
⑦国際教育推進連絡会 (多文化フェスティバル)	○	○	○	○	○
⑧若者支援事業		○			○
⑨子どもの夢応援ネットワーク	○			○	
⑩講師派遣・視察受入	○	○		○	(○) ₂

※次ページ以降、各事業について紹介しますが、写真等は「こくりゅう@home 2018」に掲載しているものとあわせてご覧ください。

①外国語体験活動事業(豊中市教育委員会委託事業)

【こくりゅう@home 2018 ... 9ページ】

【1. 概要】

○市内の小学校3年以上の全クラスを対象に、地域で暮らす外国人をボランティアとして学校に派遣し(各クラス年3コマまで)、担任の先生と協働で言葉や文化、遊びを体験するプログラム。

①教職員や子どもに地域で暮らす異なる言語、価値観、文化をもつ人との豊かな「出会い」を提供している。

②その結果、「出会い」からもっと知りたい、つながりたいという動機が芽生え、相互理解を促すためのコミュニケーション能力が双方に向上するように取り組んでいる。

③さらに、学校に在籍する外国にルーツを持つ・外国籍の子どもたちの自尊感情がはぐくまれ、マイノリティの子どもへのエンパワメントになると同時にサポーター自身のエンパワメントにもつながるよう取り組んでいる。

【2. 実施体制】

コーディネーター5人(マッチング、研修会の企画、ボランティアの相談、学校との打合せ等。※有償)、担当職員1人

【3. 2018年度の実績】

学校に派遣されたボランティア数：46人

ボランティア総活動時間：1,142時間

体験した子どもの数：延べ約34,200人

ボランティアの国・地域数：21か国・地域

【4. 特徴や工夫】

- ・基本的に言語選択は各学校が行う。
- ・ただし、クラスに外国ルーツを持つ子どもがいる場合、できる限り、同じルーツの外国人ボランティアが授業に行けるよう、学校に説明したり、相談したりしている。
- ・クラスに外国ルーツを持つ子どもがいない場合、他教科で取り扱った内容とつながりのある国や子どもの興味関心などのある国などにより言語選択を行う学校が多い。
- ・相談事業や日本語事業などで支援を受けている人でも、研修などを経てボランティアで参加してもらっている。
- ・授業のネタや流れなどを共有する研修を随時実施している。
- ・初めて参加するボランティアに対しては、初回授業時にコーディネーターも同行・授業後のフォローをしている。
- ・市教育委員会の委託事業であり、年2回ほど、取組状況や成果・課題に関する情報交換を行っている。

②平和と共存のための～おまつり地球一周クラブ 【こくりゅう@home 2018 ... 13ページ】

【1. 概要】

○小中学生を対象とした国際理解プログラム。グローバル時代を生きる子どもたちに国際的な視点を身につけてもらうため、地域で生活する外国人が講師となって、ボランティアと一緒に国際理解講座を開き、世界のことばやあそびで楽しく学ぶ。とよなか国際交流センターで実施。

対象：小・中学生

日時：2か月に1回程度(不定期開催)
1回2時間程度。

参加費：実費(各回300～500円程度)

【2. 実施体制】

担当職員1人。さらに年によっては、大学生のインターンが準備や運営を担当している

【3. 2018年度の実績】

ルーマニアへようこそ！
ドキドキ考古学
エクアドルを知ろう！
アイヌを知ろう！
アゼルバイジャンを知ろう！

【4. 特徴や工夫】

- ・話を聞くだけでなく、何かを作ったり、食べたり、体を動かしたりということを内容に盛り込んでいる。
- ・講師には成人対象の相談事業や日本語事業などで協会とつながった外国人に依頼することがあり、外国人の社会参加、エンパワメントの機会にもなっている。
- ・当初は保護者の同伴やテーマによっては見学を希望する大人もいたが、親の存在を気にしながら活動に取り組む子どももいたため、現在は最後の30分を除き、子どものみの参加としている。
- ・屋内の体験だけでなく、フィールドワーク(コリアタウン等)を行うこともある。
- ・JICAによって海外に派遣された市職員の提案によって始められた。

③学習支援・サンプレイス 【こくりゆう@home 2018 ... 6ページ】

【1. 概要】

○外国にルーツをもつ子どもの居場所づくりをしている。ボランティアと一緒に学校の宿題をしたり、試験勉強をしたり、遊んだり、自由にすごすことができる。また、外国にルーツをもつ子ども同士の出会いの場にもなっている。ボランティアは大学生だが、外国にルーツをもつボランティアや以前、子どもとして参加していたが、今度はボランティアとして戻ってくる人もいます。

対象：外国にルーツをもつ子ども(小学生以上)

日時：日曜日13～15時(毎月第1日曜日は休み)

参加費：無料

【2. 実施体制】

コーディネーター2名(子ども母語のコーディネーターも兼務)、ボランティア(大学生、大学院生)、担当職員

【3. 2018年度の実績】

※通常の活動以外のものを掲載

- ・母の日の工作づくり
- ・世界のお化け屋敷にダンス出演
- ・サンプレ・インテンシブ(夏休み)
- ・年末お楽しみ会(工作&ケーキ作り)
- ・世界のしょうない音楽祭 ダンス出演

【4. 特徴や工夫】

- ・子どもがやりたいことをサポートするため、事前にプログラムは組んでいない。
- ・ボランティアは大学生、大学院生(ぐらいの年齢)に限っている。
- ・コーディネーターは可能な限り、外国ルーツをもつ若者が行っている(現在は、小学生のときから当協会の子どもの母語等に参加していたペルールーツの若者が担当している)



④こども母語 【こくりゆう@home 2018 ... 6ページ】

【1. 概要】

○外国にルーツをもつ子どもたちが、母語や文化を楽しく学ぶ場所。会話や読み書きだけでなく、文化(料理やダンス等)も学ぶ。豊中市は外国人が散住地域であるが、同じルーツをもつ子どもが出会い、仲間ができる場所でもある。母語を教えるスタッフは、外国にルーツをもつ若者。

対象：外国にルーツをもつ子ども(小学生以上)

日時：第2・4日曜日10～12時

※現在、中国語、スペイン語、タイ語、(ポルトガル語)クラスを開講しています。

参加費：無料

【2. 実施体制】

・コーディネーター(サンプレイスのコーディネーターも兼務)、スタッフ(ルーツをもつ若者。母語を教える。)

【3. 2018年度の実績】

※通常の活動以外のものを掲載

- ・母の日の工作
- ・ペルー料理作り
- ・多文化フェスティバルへのブース出展
- ・料理作り



【4. 特徴や工夫】

- ・母語を教えるスタッフは、自分も子どものときに来日した若者が講師として関わっている。ピア(同じ経験をした仲間)サポーターであると同時にロールモデルとしての役割も果たしている。
- ・月2回の活動では母語の能力の伸長までは難しいが、母語を大事にする環境、仲間がいることを伝えることでルーツに対する自尊心を育むことを目指している。
- ・母語を教えるスタッフについて、条件に合う若者を探し出すことが難しい場合がある。



⑤子ども学習広場「学楽多」【こくりゅう@home 2018 ... 9ページ】

【1. 概要】

○保護者や家庭等が有する課題により、将来の生き方、働き方に不安を感じている子どもや若者を対象として、多様な学びや体験の機会を提供している。(豊中市くらし支援課委託事業)

対象:小学生から若者世代まで

日時:庄内ガダバ
(火曜日16:30~21:00)

とよなか国際交流センター
(金曜日17:00~19:00)

参加費:月1,000円(補助あり)

【2. 実施体制】

コーディネーター(活動の運営)、ボランティア(個々の支援等)、担当職員

【3. 2018年度の実績】

※通常の活動以外のものを記載

- ・夏のお楽しみ会
- ・夏休みの宿題対策
- ・クリスマス会



【4. 特徴や工夫】

・学習支援の場であるが、教科学習等の「学習」とどまらず、料理活動、カードゲーム遊び、工作など体験を通して学ぶことを大事にしている。また、仲間づくりも進めている。

・参加者は外国ルーツに限定していない。外国ルーツの子どもが日本人の友だちを連れてきたり、日本人の子どもが外国ルーツの友だちを連れてきたりすることがある。(学校などで外国ルーツであることをオープンにしていない子どもの場合は参加しやすい可能性がある。)

・とよなか国際交流センター(市北部)だけでなく、庄内ガダバ(市南部の民間の施設)で開催することにより、地域格差の解消を一プログラムとすることを目指している。

⑥韓国・朝鮮の言葉とあそびのつどい【こくりゅう@home 2018 ... 7ページ】

【1. 概要】

○韓国・朝鮮にルーツをもつ子どもたちがお互いに知り合い、つながり、交流する場である。民族講師の先生と民族の言葉、踊り、遊びを学びながら、子どもたちのルーツである韓国・朝鮮の文化にふれ、民族の誇りを養う。豊中市在日外国人教育推進協議会との協働事業で、学校の先生が中心になって実施している。

対象:韓国・朝鮮にルーツをもつ子ども

日時:主に毎月第3土曜日午前中

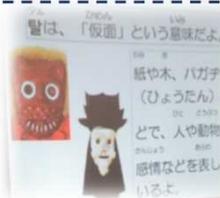
参加費:無料

【2. 実施体制】

教職員有志、担当職員

【3. 2018年度の実績】

- ・開校式、自己紹介
- ・ウリマルを学ぼう
- ・工作をしよう
- ・そうだ!
コリアタウンに行こう!
- ・お料理会とお正月のあいさつ
- ・1年間をふりかえろう!
文集を作ろう!
...等



【4. 特徴や工夫】

・韓国・朝鮮につながりのある子どもたちが、基本的に毎月第3土曜日に集まり、民族講師(ソンセンニム)から、民族の文化や遊びの学びを通して、自尊感情を培うとともに、友だち(チング)とのつながりを深める場を設けた。

・市内小・中学校の先生方が主体の「韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい」実行委員会が中心となり、「つどい」の運営を進めている。

・夏休みにハギハッキョ(夏期学校)を行っている。2018年度は8月2日及び3日(小学生対象)、8月9日から10日(小学生高学年~中学生対象。キャンプ)で実施した。ハギハッキョは2019年に40周年を迎え、7月には40周年記念のイベントを実施した。

⑦国際教育推進連絡会(多文化フェスティバル) 【こくりゆう@home 2018 ... 12ページ】

【1. 概要】

○文部科学省は2005年8月に「初等中等教育における国際教育推進検討委員会」報告書をまとめた。

国際関係や異文化を単に理解するのではなく、主体的に行動するための態度や能力の基礎を育成する「国際教育」の必要性を唱え、国際教育推進プランを実施する地域を指定した。

豊中市もその一つとして、2008年度までの3か年の事業に取り組んだ。それを引き継ぐ形で2010年に豊中市国際教育推進協議会を立ち上げ、現在も連絡会を設け、継続的に取り組んでいる。

また、連絡会の後援により、毎年多文化フェスティバル(子ども対象)を実施している。

【2. 実施体制】

連絡会担当職員のほか、子ども・若者事業を担当する職員を中心に多文化フェスティバルの企画・運営を行っている。

【3. 2018年度の実績】

- ・協議会の実施
- ・多文化フェスティバルの実施



【4. 特徴や工夫】

・連絡会は、教育委員会、学校関係者(国際教室を実施していたり、ユネスコスクールであったり...等)、豊中市在日外国人教育推進協議会、こども園関係者、高校、とよなか国際交流協会等、国際教育に関わる多様なセクターが集まるものとなっている。

・多文化フェスティバル(帰国児童生徒、在日コリアン児童生徒・渡日外国人児童生徒など国際に関わる子どもやその保護者、教員が集い、つながり、交流を深める機会)を毎年開催している。企画・運営にあたっては、特に、外国につながる子どもたちが主役になる場を意識して取り組んでいる。(2019年度で第15回目)

当協会だけでなく、教育委員会での取組、府立高校からの参加、近隣市町での取組なども参加するなどしている。

⑧若者支援事業 【こくりゆう@home 2018 ... 8ページ】

【1. 概要】

○外国にルーツをもつ若者のための居場所づくりをさまざまな角度から行っている。15歳以上の外国にルーツをもつ若者が中心となり、国際交流センターはもちろん、地域で様々な活動に取り組んでいる。

対象:15歳以上の外国ルーツの若者

日時:毎週日曜日

13時~15時 若者の日本語

17時~20時 たまりば

参加費:無料



【2. 実施体制】

コーディネーター、相談員、日本語指導のボランティア、職員

【3. 2018年度の実績】

- ※通常の活動以外のものを記載
- ・地域活性化イベントへの出店
- ・若者たちの想いを発信するためのイベントの企画運営(ラップ、フード販売等)



【4. 特徴や工夫】

・若者の日本語は元高校教員が行っている。

・たまりばの活動ではその日、集まった参加者の間で話をしながら、その日に何をするか決める。みんなでご飯を作って食べることもあれば、映画を見ることもあれば、ゲームをしたりすることもある。参加者の体調や気分に合わせて活動を行っている。

・コーディネーターを中心に事業の企画運営を行っているが、事業に参加している若者の意見や希望、抱えている課題などを踏まえながら、事業運営を行っている。

・相談員は、若者のたまりばなど活動に入り込み、若者と関係を築きながら、若者の課題や悩みを聞き、対応している。

・地域のイベントに参加・出店する中で、自分たちで企画を立てたり、準備をしたりしている。実践的なコミュニケーションおよび体験の場を重視している。

⑨子どもの夢応援ネットワーク 【こくりゅう@home 2018...8ページ】

【1. 概要】

○外国にルーツがあるなど、マイノリティ性をもつ子ども・若者の支援に関わっている団体、個人で作られたネットワーク。

2017年7月から活動を開始しており、定期的な情報交換やシンポジウムなどを実施している。



【2. 実施体制】

・緩やかなネットワークであり、特に規約や事務局などを設けていない。
 ・参加は国際交流協会のほか、NPO法人や個人参加など多様。とよなか国際交流協会は一参加団体としてかかわっている。

【3. 2018年度の実績】

・定期的な情報交換会 12回
 ・シンポジウム「ともにいきるシンポ part2 多民族社会日本のこれから」を大阪市内で開催。

【4. 特徴や工夫】

・実施内容に合わせて、その都度、実行委員会を設置し、シンポジウムや研修会などを開催している。
 ・子ども、若者の抱えている課題は多様であり、必要な支援も多岐にわたる。そのため、一団体で対応できるようなものではない。シンポジウムでは、どういった現状があるのか広く知ってもらうこと、多様な機関・団体のつながりを作ることを通して少しでも現場の取り組みが改善されることを目指している。
 ・支援者同士が集まり、情報やアイデアなどを交換したりする機会は、日ごろ孤立しがちな支援者のエンパワメントの場としても貴重である。
 ・2019年12月15日には佐賀スチューデントサポートフェイスの谷口仁史代表理事を招いてシンポジウムを開催する予定。

⑩講師派遣・視察受入

【概要】

○とよなか国際交流協会では、国際理解や人権、多文化共生等をテーマにした授業・講義への講師の派遣を行っている。

対象：だれでも可能

日時：応相談。大体1時間～2時間程度のことが多い。

参加費：2時間21,600円を基本としている(ただし、応相談)。

【実施体制】

・依頼内容に応じて、地域に暮らす外国人や職員が訪問して授業を実施／視察に対応。事務局が窓口を務める。

【2018年度の実績】

講師派遣：(高校)9件 (中学校)10件 (小学校)10件 (幼稚園・保育園)6件 (その他一般)55件

視察受入：(高校)2件 (中学)0件 (小学)2件 (幼稚園・保育園)0件 (その他一般)15件

【特徴や工夫】

・依頼内容に合わせて、対応している。
 ・外国ルーツの子ども、若者の参加者がいる場合は、その子ども、若者が協会の各種事業につながるように、また、その子どもが周りの子どもたちとうまくつながりなおすように取り組んでいる。

